

施設等の含まれた事業約二十八億円。これを合併の重点事業と位置づけて、合併特例債を使いながら進めていきたい。」
八、転作の対策について
「合併することによって、転作はどのようになるのでしょうか。」

【答弁】

◆農林課長

「シシムン」に基づいた形で三年間はそのままやっていくことになると思います。三年後については、また後ほど協議しましょうという形になりました。これは、県の指導でもありましたので、そういうふうにしてやっていきたいというふうに承願します。」

◎商工業の振興対策について

「町の人口が減ることによって商工業振興が難しくなっていると思いますが、その対策をお伺いします。」

【答弁】

◆鳴海町長

「総合支所方式に分庁方式をプラスして、少しでも町職員が少なくならないように議員の皆さんのお力添えを願います。」
◎合併によって金木役場の職員数は、大体何人ぐらいになるのでしょうか。

【答弁】

◆合併対策室長

「現在の庁内の職員数は、百四名勤務しています。現在の庁舎は金木庁舎という形で残り、総合支所の職員ほか本庁の機能といたしまして、教育委員会が入り、現在の建設課が支所の建設課、会計課が支所の出納室、それと水道事業所の出張所、保健センター、農業委員会の支所が入り、正職員数で九十三名の予定となっております。」
◎屏風山内真部線について
「調査費がいった結果どうなったのでしょうか。今後どうなるのかお伺いいたします。」

【答弁】

◆鳴海町長

「新金木橋の交差点改良事業など、一部実施されているようですが、屏風山内

真部線の通年通行が一番かと思えます。五所川原の中山トンネルと金木の屏風山内真部線、二本の同時並行は無理だと思えますので、屏風山内真部線の整備を優先して進めたい。」

秋元洋子議員

◎物産館について

「物産館との今後の契約はどのようなのか。また、観光物産館下屋部分は、一般の方たちのお金額をお知らせください。」

【答弁】

◆企画観光課長

「平成十五年四月一日から十七年三月三十一日までです。ただし、契約の双方異論がない場合は自動的に契約がなされており、また、今後は、指定管理者制度に移行しなければなりません。十八年度以降は、公募によるのか、またわからぬことになりました。金額については、今までは一日あたり二千円。今年の七月、募集をかけて、その際千円というふうに値下げされており、一日千円です。で、一月三万円という計算になります。」
◎来春から農作物を販売するにあたってどう対応していくのか。

【答弁】

◆鳴海町長

「物産館下屋を区切った関係上、販売場所が異常に狭くて制限されている。テナントという形はこれないか。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「地場産品の消費拡大のため、せつかく年間十万人来ている観光客のために何か野菜の直売所がほしいなど、いつも思っています。テナントを張っているのではないかという気がしていますので、今も一度担当課と相談したい。」
◎道の駅または直売所を考えているか
「道の駅が難しいのであれば、テナントという形でもいいのかと思いますがいかがでしょうか。」

【答弁】

◆鳴海町長

「浪岡とか鶴田町とかいろいろな直売

所に行ってみました。活気づいていて、私も金木町にもこういう直売所あるいは道の駅があったらなとも思っています。でも、やっぱり町で呼び掛けるよりも、農家の人の声を私ほめてほしい。」

【答弁】

◆企画観光課長

「活性化委員会でもいろいろ検討されましたけれども、事業費が莫大にかかるということ、ちょっと無理があるのではないかという意見もあって、また具体的な計画には至っていません。」
◎総合保育事業について

【答弁】

◆健康福祉課長

「合併協議会たよりの中に乳児保育は市浦の例により統合するつもりですが内容を提示してほしい。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「出産の乳児保育をする保育所があれば安心して出産し、働くことができるという保護者のニーズに応じて、育児休暇終了後から乳児保育を受け入れるというふうに変わっております。今よりも若干乳児保育の対象の年齢が引き下がるという形になります。」
◎合併後、運営体制について

【答弁】

◆健康福祉課長

「民間委託している五所川原市と合併後、運営体制を現行とおり新市に引き継ぐとありますが、いつまでなのか期限を決めたのか。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「金木町の保育所は公立のままで、そのまま引き継ぐという形で運営するという協議しております。いつから民営化されるのかというお話は一切したことがありません。あくまでも公立という形で考えております。」
◎保健センターについて
「金木町で保健師への育児相談はどのくらいあるのか。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「通常であれば乳児健診、いわゆる一歳六カ月とか三歳児健診です。これが年

二十回程度あります。常にお母さんがついてくるわけですから、その時に聞いて相談に応じます。十五年度の乳児健診は延べ三百六十六人、センターでの相談は十五件、電話相談は百二十六件ございました。今年度の場合ですと乳児健診は延べ二百十人、センターが九件、電話相談は三十八件です。数値的には落ちておりますけれども、いわゆるこの見方としては、健診時の相談を持って事が足りているのかなというふうな形で推察しております。」
◎地域との関わりを聞きたい。

【答弁】

◆健康福祉課長

「十五年度につきましては、保健師活動の中の六十五・六％。これが地域に出る活動となっております。十四年度が六十五・四％、十三年度は六十四・七％。大体似たような数字でございます。内訳としては、健康診査が二十四％とか、健康教育が十一％とかという形です。いろいろあるわけですが、家庭訪問も八％程しております。また、家族会とか患者会、保健協力員などの組織のかかわりなども五％ほどという形で、業務の中身からいくとその割合で動いているということになります。」

◎思春期教育について

【答弁】

◆健康福祉課長

「命の大切さ、赤ちゃんのふれあい教育、学校と保健師の関わりをどの程度波及しているのか。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「母と子のふれあいセミナー、これにつきましては、金木南中学校の方が一番初めに対象となりまして平成四年度から行っております。女子生徒として赤ちゃんの発育なり、観察とふれあい体験という形で、母親になる若い女性に対しての妊娠出産、育児等に対する正しい知識を追求し、命の尊さを認識してもらうというところで行われました。金木中学校

につきましては、平成十三年度から思春期の保健講座ということで、三年の男女生徒を対象に、妊娠の疑似体験、赤ちゃんの世話体験、母性女性の気づきや芽生えを感じさせるという形で命の尊さを訴えていきたいという形で行っているわけです。」
◎母と子のふれあいについて
「平成四年度から続けているのが南中だけなんです、なぜ金木中学校は、授業の力キキラムの中に組み入れていないのですか。」

【答弁】

◆教育長

「学校にはそれぞれのカリキュラムがありますので強制はできませんけれども金中の校長と十分話し合いながら取り組むように進言したいと重なります。」
◎成人病対策について
「男性の検診率が低い、検診率を上げるためにどういった対策をとっていますか。」

【答弁】

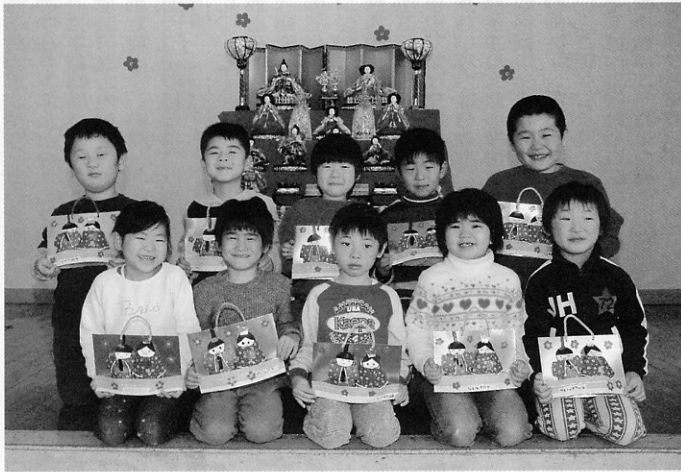
◆健康福祉課長

「町民一人一人が健康増進に努めて、病気の原因となる生活習慣のあるものを予防改善する一次予防、これを重点に置いた健康づくりを推進するという目標のもとにやっています。今後の活動内容は、健診の受診者アップのために三十歳の女性、四十・五十歳男女に受診勧奨の個別通知、前年度受診者に対して、今年度応募のない人に個別勧誘の通知、要精密検査者へ対応する電話で勧誘の実施をしております。高血圧、高脂血症、糖尿病についても、個別健康教育も行ってあります。訪問指導につきましては、町内の対象地区を六人の保健師が区分けして、約千九百九十九・七五日ほど動いています。」



第1保育所

保育児童全員が「うれしいなひなまつり」の歌を大きな声で歌っていました。



第2保育所

たんぽぽ、チューリップ組の保育児童が、終了式でお話する言葉の練習をしていました。



第3保育所

パネルシャーターでピーターパンのお話を聞いて、楽しい1日を過ごしていました。



第4保育所

マジックショーやひなまつり紙芝居に、保育児童は夢中になっていました。

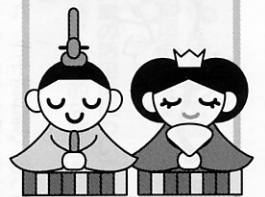
3月3日

保育所

「ひなまつり」

ハイポーズ!!

おすまし顔と笑顔で



まちのできごと



除雪ボランティア隊出動!

町豪雪対策本部設置後の2月7日、14日、15日の3日間、町役場職員と町社会福祉協議会の職員約30名が、独居老人、老夫婦世帯や障害者世帯を対象に、除雪ボランティアを行いました。

各班員5～7人の3班体制で臨んだ除雪ボランティア隊は、降雪の中、町内84世帯の玄関前や屋根の雪降ろしなど一生懸命に除雪をしていました。

除雪のボランティアを受けた高齢者の方々は、「本当にありがじゃ〜。助かる。」ととても喜んでいました。

転作組合長さん頑張ってます!

2月15日から始まった平成17年度生産調整(転作)及び水稲作付けの受付が各地区会場で行われ、転作組合長さんがそれぞれの計画達成のため、書類作成に取り組んでいました。

農家の方々が作成した計画書を組合長に提出し、組合側で転作及び水稲作付け面積を確認調整後、その計画書を町水田農業推進協議会へ提出し、実施されます。

今回初めての試みである転作組合長さんによる受付作業は、合併後引き続き行われていきます。



心肺蘇生法を習得!

金木町消防団(団長=須崎悠悦)主催の心肺蘇生法講習会が2月25日、26日の2日間、金木消防署2階会議室で行われました。

参加した消防団員25名は、金木消防署員の津島伸治さんと其田昌佳さんから、心肺蘇生法についての説明と実技指導を受けていました。

団員たちは、ダミー人形のそばで話掛け、あごの角度や胸に置く手の位置などを確認しながら、心肺蘇生法を習得するために一生懸命に取り組んでいました。

喜良市小、健康教育推進学校優良校受賞!

3月4日、小田川修三喜良市小学校校長と児童2名が役場を訪れ、21世紀新しい時代の健康教育推進学校優良校に選ばれたことを鳴海町長に報告しました。

昨年の9月に第43回青森県健康教育発表大会を同校で開催するなど、同校と地域ぐるみの健康教育への取り組み方が高く評価され、受賞しました。

校長先生と一緒に訪れた、同校保健環境委員会の長尾麻衣子さん(小6)と岡田瑞希さん(小6)は、受賞の感想を「大きな賞をいただいてうれしい。」と満面の笑顔で話してくれました。



子育ての悩みを解消!

3月7日、中央公民館で子育てサポートが開設され、親子3組が参加し、楽しく遊んでいました。

子育てに関する知識を深め、悩みを解消し、参加した親子の交流などを目的に開催されており、講師の津島弘美さんが驚いた顔、怖い顔などの写真を子どもに見せては、自己表現力を高めさせ、子どもたちの能力を伸ばそうと話していました。

参加していた小田桐杏純ちゃん(5歳)は、「友だちがいっぱい出来て、とても楽しいです。」と明るい笑顔で話していました。

金木町若松町出身で群馬県邑楽町在住の松尾弘さんからのお便りを紹介します。

ふるさと金木から、もくもく煙を出しながら走る夜行列車に乗り、上野駅に着いたのは、明仁皇太子殿下と正田美智子さんのご成婚の年でした。ラーメン1杯50円の当時、早朝から深夜まで働いて（住込み・三食付き）貰った給料は1,500円でした。

あれから40年数年余り月日の経つのは早いもので、テレビでストーブ列車や斜陽館を見ると、山で親父と見た、日本海に沈む直径1m位の真っ赤な太陽が目に浮かんで故郷が恋しくなります。

昭和48年に群馬県邑楽町に移り住み、居を構えて30余年。町の教育委員会より体育指導員に任命され、お早うウォーク、町民マラソン、町民体育祭、グランドゴルフ等の行事で裏方として活動をさせていただいています。

邑楽町はスポーツの盛んな町で、オリンピック2大会連続金メダルのレスリング選手や東洋の魔女と言われた女子バレーボール選手、少年サッカーで日本一になったFC邑楽からJリーグ選手など、著名な選手が生まれ育っています。「津軽のじょっぱりわらし、てっぺいがんばるはんで、なんども頑張っけなが」

金木町として最後の「広報かなぎお便りコーナー」を使わせていただきありがとうございました。



東京ふるさと金木会理事 松尾 弘

追 伸

2月13日の役員会（16名出席）で東京ふるさと金木会は、今後も活発な活動を続けていく事を決議いたしました。ふるさとの皆さまにはご支援よろしくお願いいたします。

芦野公園の桜まつりには、例年どおり出店し、甘酒の無料配布、歌謡ショーなどをを行いますので是非お立ち寄りください。

本年の東京の花見は、3月27日(日)東京錦糸町の猿江恩賜公園にて正午から開催します。（連絡は、22日までに事務局または会長まで）総会・懇親会は、7月3日(日)正午より、東京中野（中野サンプラザ）で開催します。

金木会は、金木町出身の誇りを守り頑張ります。

東京へお越しの節はご連絡ください。お待ち申し上げます。

東京ふるさと金木会会長 工藤源次郎

【東京ふるさと金木会事務局】

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-3-22 アドニス天野2F

加藤税理士事務所内

TEL 03-3942-8825・FAX 03-3942-9171

国民年金情報

四月から三〇歳未満の方を対象に

『若年者納付猶予制度』が新設されます。

これまでは、所得の少ない三〇歳未満の方が所得の多い世帯主と同居していることで、国民年金保険料の免除に該当しない場合がありました。

三〇歳未満の方の年金権を確保するために、同居している世帯主の所得と関係なく、本人及び配偶者の前年の所得が基準額（全額免除基準）以下であれば、国民年金保険料の納付が猶予される制度が新設されました。

●納付猶予期間は、病気やケガで障害を負ってしまった場合や死亡といった不慮の事故が起こった場合の障害基礎年金や遺族基礎年金を受給するために必要な期間として扱われます。

●将来、老齢基礎年金を受給するために必要な期間として扱われます。

●納付猶予期間から一〇年以内であればさかのぼって保険料を納めることができます。

※ただし、納付猶予を受けた年度から二年を経過した分の保険料には加算額が上乗せされます。

詳しくは、お住まいの市町村役場国民年金担当課またはお近くの社会保険事務所までお問い合わせください。

花粉症について

公立金木病院
副院長 小堀 宏 康

花粉症とは？

花粉症とは花粉が原因で起こるアレルギー性の炎症です。現在、日本人の約二割の人が花粉症といわれています。

花粉症の症状

花粉の季節が始まると、鼻、口蓋、咽頭、および眼が次第に、または突然むずがゆくなり始めます。澄明で水っぽい鼻汁がかゆみとともに起こり、鼻が詰まったり頻繁にくしゃみがあります。また、涙がでて眼がかゆくなり、白眼とまぶたが赤くなったり、まぶたが腫れ上がったりします。コンタクトレンズを使用している人は眼の異物感（ゴロゴロした感じ）がでます。これらの症状により頭痛やいらいらとした気持ちになったり、食欲不振、不眠症になったりする事もあります。去年まで花粉症とは無縁

だった人でも、突然花粉症が発症する場合もあるので注意が必要です。

原因となる花粉症は？

日本では約六十種類の植物の花粉が原因となるといわれています。代表的なものとしてスギやヒノキ、カシ、ニレ、カバなどの樹木や、イネ科やキク科（ブタクサ）の草の花粉があげられます。

花粉症発症のメカニズム

私たちの体には異物（病原体など）を排除する免疫という防御システムがあります。つまり、ある花粉が鼻・のどから体に侵入し、その花粉を異物と判断した場合、体の中ではこの異物を排除しようとIgE抗体という物質を作ります。再び同じ種類の花粉が体内にはいると、鼻の粘膜にある肥満細胞のIgE抗体と花粉がくっつきやすくなります。するとその肥満細胞よりくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの原因となるヒスタミンやロイコトリエンなどといった化学物質を分泌し、花粉の中に含まれないように防御するのです。

どうして花粉症になる人とならない人がいるかといえば、人によって免疫系が反応する抗原（花粉）には個人差があり、花粉

今年はスギ花粉の飛散量が多くなる？

前年の夏の平均気温が高かった年にスギ花粉が多く飛ぶというデータがあります。今年の場合、二〇〇三年は冷夏でスギの開化が少なかったものの、二〇〇四年は猛暑で二年分が一挙に開化してしまったことから、今年の春は過去最高だった一九九五年を上回る飛散量になると予想されています。花粉症の症状は、花粉の飛散量に比例して悪化する傾向があります。そのため、テレビやインターネット等の花粉情報・気象情報を活用しましょう。

花粉の飛びやすい日は？

- (1)晴または曇りの日
- (2)最高気温の高い日
- (3)湿度が低い日
- (4)やや強い南風が吹き、その後北風に変化したとき
- (5)前日が雨

つまり、前日から雨が降っていて、その後天気が急速に回復して晴れて気温が上がると、南風が吹く日が花粉の飛びやすい条件といえるでしょう。

花粉症対策

花粉症対策の原則は、いかに

体内に花粉が入ってこないようにするか！につきます。

一、花粉の飛びやすい日の外出を控えること。また、花粉の飛散が多い時間帯（花粉の種類によっても異なりますが、午後一時から三時頃が多いと言われています）には外出を避けましょう。

二、外出時の防備。マスク、深めの帽子、めがね、長めのコートなどで体に花粉がつかないようにする。最近はいろいろな花粉対策グッズが市販されているので試してみてもいいかがでしょうか？

三、ドア・窓を閉めること。花粉の多い日や時間帯には窓を開けないようにしましょう。最近では網目が細かく、花粉のフィルター役割をする網戸も発売されているようです。

四、家の中に花粉を持ち込まないよう帰宅した際、上着を脱いでからうちに入ること。また、うがいや洗顔、手洗いで体についた花粉を速やかに洗い流しましょう。

五、洗濯物、布団は室内に干すこと。屋外に干すと洗濯物や布団に花粉が付着し、寝ている間に症状が悪化することがあります。

六、掃除をこまめに行うこと。家の中に入った花粉を取り除

くためです。

花粉症の治療について

大きく分けて花粉症の治療には次の四つの方法があります。

1 花粉の除去と回避

抗原回避（つまり花粉をいかにして体内に入らないようにするか）が治療の基本です。しかし、スギ花粉はきわめて多いため、これを完全に取り除くことは難しいのです。

2 薬物療法

花粉症の治療で使用する薬には、経口薬、点鼻薬、点眼薬などさまざまな種類があります。どの症状を抑えたいかによって、使う薬が異なりますから、医師の診断を受けた上で自分のライフスタイルに合わせて選択することになります。

3 減感作療法

原因となっている抗原を少量ずつ増やしなが注射していく方法です。長い期（2〜3年の治療）が必要ですが、症状の強い人で定期的な通院が可能であれば、専門医に相談してみましよう。

4 手術療法

凝固壊死法、鼻腔整復術など。以上、花粉症のお話でした。的確な自衛策をとり、来るべき花粉に対してできるだけ快適な対策を心がけましょう。

人口と世帯

	2月末現在	前年同月比
男	5,446人	△ 75人
女	6,058人	△ 106人
計	11,504人	△ 181人
世帯数	4,081	2

戸籍の窓 2月届出分

おしあわせに

(前高古三)	田橋関川宅川	貴美将	洋和臣	(進和博)	神青金青岡嘉	原市木市県瀬
(白)	川	亜	弓	(貢)	嘉	瀬

おくやみ

白中松白阿吉米鎌木伊古棟工	川谷川川部田谷田下藤川方藤	孝義イハ繁清トス信興ミみキ	吉正セエ治郎ミサ行郎セゑエ	(89才)(92才)(95才)(90才)(92才)(68才)(82才)(71才)(74才)(85才)(64才)(80才)(73才)	川金嘉金嘉金嘉金喜嘉喜	倉木瀬瀬木田市瀬木木市瀬市
---------------	---------------	---------------	---------------	---	-------------	---------------

この欄は金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口に届出の際申し出てください。

このコーナーを利用したい方は企画観光課まで

- ◎届いています
- ◆二月十五日 カギ芦野団地踏切付近
 - ◆二月二十四日 ビニール袋 金木町昭和町路上
 - ◆三月一日 財布(茶) 交流プラザ待合室
- 心当たりの方は金木警察署落し物係まで

伝言板

お知らせ

市町村合併に伴い、これまで親しんでいただきました『広報かなぎ』は、今月の3月号で終了となります。
 新五所川原市第1号の『広報ごしょがわら・4月号』は、4月15日の発行となり、5月号から毎月2回(1日、15日)の発行となります。
 また、今まで月2回発行されてきました『お知らせ版』(印刷もの)は廃止となり、すべて『広報ごしょがわら』へ掲載される予定です。

金木北部消防団 連絡協議会解散式



市町村合併に伴い、金木町、中里町、市浦村、小泊村で組織されている金木北部消防団連絡協議会の解散式が三月八日、駅前のかさで行われました。

昭和四十八年に組織されて以来、消防団相互の親睦を図り、消防技能の訓練研究や春・秋の火災予防運動など、多くの事業に取り組んできた協議会は、三月二十七日をもって解散し、その後は、それぞれの市町村合併先で新たに組織され、消防団相互の連絡調整や消防活動などに努めることとなります。